

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（1 / 2 ページ）

種目(教科等)【音楽（器楽合奏）】

	教科書名( 中学器楽 音楽のおくりもの ) 会社名( 教 出 )
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○基礎を身に付ける「演奏の仕方を身に付けよう」とその基礎力の上に取り組む「合わせて演奏しよう」のアンサンブルを示すとともに、音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす様々な奏法について具体的な資料が示されている。</p> <p>○リコーダーやギター、5種類の和楽器や打楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を入れた教材を掲載し、我が国や諸外国の音楽に触れるよう構成されている。</p>
内 容	<p><b>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</b></p> <p>○「演奏の仕方を身に付けよう」では、各楽器の構造や各部の名称が写真や図で示され、複数の角度から奏法などが説明されている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b></p> <p>○各楽器には「演奏のポイント」が具体的にアドバイスされており、「合わせて演奏しよう」ではいろいろな編成で掲載され表現力を深めていけるよう工夫されている。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b></p> <p>○「Let's t r y」では楽器やパートを選んだりできるような様々なアンサンブルに対応できるように工夫され、主体的に取り組めるよう工夫されている。また、「音のスケッチ」では、主体的な活動のために順序立てた手だてが示されている。</p> <p><b>〈音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫〉</b></p> <p>○共通事項を踏まえた学習課題が示され、リコーダーの新出運指はページ横に掲載され、ギターの運指もキーボードによる音程と同時に確認できるよう工夫されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダー同士のアンサンブルやアルト、ソプラノのどちらでも学習できるように工夫されている。</p> <p>○各楽器とも時代や曲種等に偏りなく、幅広いジャンルの中から教材を選択し歌唱教材や鑑賞教材の楽曲も掲載されている。また、「Let's p lay！」から「Let's t r y！」へと難易度が吟味され、個に応じた指導ができる設定に工夫されている。</p> <p><b>〈音楽文化についての理解を深めるための工夫〉</b></p> <p>○箏・三味線・篠笛・太鼓・尺八が取り上げられ、各楽器の名手から中学生へのメッセージが掲載されている。また、和楽器を扱ったアンサンブルも掲載されている。</p>
資 料	<p>○巻頭や巻末には演奏場面の写真やメッセージ、音楽制作現場の写真が掲載されている。</p> <p>○巻末には「リコーダーの運指表」「ギターとキーボードのコード」が一緒に示され、特にキーボードには鍵盤が示されるなど工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○演奏のポイントが主体的に学習を進められるよう説明されている。</p> <p>○楽器の基本的な奏法が写真や図を使い、複数の角度から示され、巻末には「いろいろな用語、記号」が見開きページとして掲載されている。</p> <p>○和楽器では、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されており、多様な曲種が掲載されている。</p>
総 括	<p>○「名曲旋律集」では、名曲の解説とリコーダー演奏の編曲が掲載されている。</p> <p>○楽曲ごとのページ数では、リコーダー16、ギター、箏10、三味線、太鼓8、篠笛4、尺八2となっており、発展的な学習ができる構成で、表現と鑑賞の領域を横断する教材が示されている。</p>

教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告（2 / 2 ページ）

種目(教科等)【音楽(器楽合奏)】

項目	教科書名(中学生の器楽) 会社名(教芸)
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○「音楽学習 MAP」では共通事項と関連のあるアイコンが明示されており、各教材の学習目標とそれに取り組む窓口となっている。音楽を愛好する心情を育て音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための様々な奏法について具体的な資料が示されている。</p> <p>○リコーダーとギター5種類の和楽器と12種類の打楽器を取り上げ、アンサンブルの中に和楽器を用いた教材を掲載し、我が国や諸外国の様々な音楽に触れるように構成されている。</p>
特色	<p><b>〈基礎的・基本的な知識技能を習得させる工夫〉</b>                      ○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示され、複数の角度から奏法などの説明が写真で示されている。短い曲の学習の積み重ねにより習得させる工夫がされている。</p> <p><b>〈思考力、判断力、表現力等を育成する工夫〉</b>                      ○活動のヒントとなる「演奏のポイント」「音を聴いて確かめよう」「ここが分かればGrade up!」や「アンサンブルセミナー」のコーナーでは、思考力、判断力、表現力について活動を通して育成されるよう構成されている。</p> <p><b>〈主体的に学習に取り組む態度を養う工夫〉</b>                      ○「楽器を知ろう」「Q&amp;A」「音を聴いて確かめよう」「和楽器こぼれ話」「演奏のポイント」「練習のポイント」では学習に必要な情報が示され主体的に学習に取り組む構成になっている。</p> <p><b>〈音楽活動の基礎的な能力を伸ばすための工夫〉</b>                      ○各楽器とも平易な練習曲から学習が進められ、様々な楽器やその編成によるアンサンブル教材が選択され、難易度の吟味により、個に応じた指導ができる設定になっている。</p> <p>○「音を聴いて確かめよう」では「楽器の音色」からその特徴を理解させ、「アンサンブルセミナー」等では学習目標が明確に示され「ここが分かればGrade up!」で目標に達成するための手順が示されている。</p> <p>○「My Melody」では箏や打楽器における創作活動に取り組めるよう教材が配置され、教材に応じて学習目標、共通事項を「学習の窓口」としてマークで示されている。</p> <p><b>〈音楽文化についての理解を深めさせる工夫〉</b>                      ○効果的な資料や写真により5種類の和楽器を取り上げ、楽器の紹介や奏法から、姿勢や礼儀等も含め説明されている。「調べてみよう」では自分たちの地域等の音楽の紹介も示されている。</p>
	<p><b>資料</b></p> <p>○巻頭では4人の若手演奏者の写真とメッセージ、リコーダーとギターが活躍する曲、尺八と篠笛の写真が掲載されている。</p> <p>○巻末では「リコーダーの運指表」「ギターのコードダイアグラム一覧表」「音楽の約束」「日本の伝統音楽の楽器編成(写真付き)」が掲載されている。</p>
	<p><b>表記・表現</b></p> <p>○各教材には、扱われている記号や用語の解説が四角でレイアウトされ、各楽器、楽曲の演奏のポイントが写真や具体的な説明が掲載されている。</p> <p>○和楽器においては五線譜と和楽器固有の奏法譜が示され、生徒の実態に応じた取組ができる。</p> <p>○巻末には「音楽の約束」が掲載されている。</p>
総括	<p>○「名曲スケッチ」では、各曲の解説とリコーダーで演奏する編曲が掲載されている。</p> <p>○楽器ごとのページ数はリコーダー13、ギター8、三味線8、太鼓、打楽器4、篠笛、尺八2となっており、適正な割合で、表現と鑑賞の領域を横断する教材が示されている。</p>